

## 点検・評価報告書（理工学部）

### 基準 1 理念・目的

#### 1 現状分析

##### 点検・評価項目①

大学の理念・目的を適切に設定すること。また、それを踏まえ、学部及び研究科の目的を適切に設定し、公表していること。

<評価の視点>

- ・大学が掲げる理念を踏まえ、教育研究活動等の諸活動を方向付ける大学の目的及び学部・研究科における教育研究上の目的を明らかにしているか。
- ・理念・目的を教職員及び学生に周知するとともに、社会に公表しているか。

① 学部等ホームページに、以下の項目を掲載し、社会に公表していますか。

- (1) 日本大学の目的及び使命
- (2) 日本大学の教育理念
- (3) 日本大学教育憲章
- (4) 学部においては、学部、学科ごと、研究科においては、研究科、専攻の課程ごと、短期大学部においては、学科、専攻科ごとの教育研究上の目的

[自己評価]

- 全ての項目を掲載している。  
 一部の項目を掲載していない。  
 その他回答

② 履修要覧に、以下の項目を掲載し、学生に周知していますか。

- (1) 日本大学の目的及び使命
- (2) 日本大学の教育理念
- (3) 日本大学教育憲章
- (4) 学部においては、学部、学科ごと、研究科においては、研究科、専攻の課程ごと、短期大学部においては、学科、専攻科の教育研究上の目的

[自己評価]

- 全ての項目を掲載している。  
 一部の項目を掲載していない。  
 その他回答

#### 2 長所・特色・問題点

特になし

### 基準 2 内部質保証

#### 1 現状分析

##### 点検・評価項目①

内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。

<評価の視点>

- ・学部、研究科その他の組織における自己点検・評価をそれぞれ定期的実施し、その結果を活用して改善・向上に取り組んでいるか。
- ・学部、研究科その他の組織における自己点検・評価の客観性、妥当性を高めるために、学生の意見や外部の視点を取り入れるなどの工夫をしているか。

③ 学部等において、PDCAサイクルをどのように機能させているか、内部質保証体制（内部質保証推進委員会、自己点検・評価委員会、各委員会組織、教授会、執行部会等の役割や関係性）や、活動内容について記述してください。

理工学部自己点検・評価委員会（専門委員会含む）が関係部署（各委員会等）へ点検・評価の資料作成依頼を行い、点検・評価報告書等を作成し、理工学部内部質保証推進委員会へ報告を行い、本学部の課題等を抽出している。課題として抽出された事項については、理工学部自己点検・評価委員会が関係部署へ改善計画の作成を指示し、改善に努めている。作成された改善計画は担当会議（執行部会）にて審議を行い、担当・主任会議及び教授会にて報告している。

自己点検・評価活動以外の取組としては、理工学部内部質保証推進委員会が理工学部情報統括委員会（IR委員会）の取組内容、SD研修会・FD研修会の開催結果等について報告を受け、点検・評価を行っており、改善が必要な場合は改善指示を行っている。

④ 三つの方針について、どの組織が、どのように検証しているか記述してください。

学務委員会を中心に検証を行っている。カリキュラム変更等改正が必要となった場合は、学務委員会が中心となって検討し、教授会で意見を集約又は審議することになっている。

⑤ 外部評価を実施（令和3年度から令和5年度までの期間）している場合、点検・評価項目を記述してください。

<令和3年度>実施なし

<令和4年度>

- (1) 教育課程・学習成果（ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー）
- (2) 学生の受け入れ（アドミッション・ポリシー）

<令和5年度>

- (1) 教育課程・学習成果（ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー）
- (2) 学生の受け入れ（アドミッション・ポリシー）
- (3) 学生支援
- (4) 社会連携・社会貢献

⑥ 外部評価の結果、改善・向上に取り組んだ事項について記述してください。

現在、外部評価結果にて意見等があった内容について各部署にて改善取組の方針等を検討している状況である。

⑦ 今後、外部評価、分野別評価、法科大学院認証評価、JABEE認定を受審する予定があれば記述してください。

外部評価は令和5年度に引き続き、令和6年度中に外部評価を実施する。

J A B E E 認定されている交通システム工学科は令和5年度に受審し、6年間認定が有効となり、次回は令和11年度に受審予定である。

⑧ 教育の質の向上を図るために、学生からの意見を取り入れていますか。取り入れている場合は、その内容を具体的に記述してください。

- ・授業評価アンケートを実施している。
- ・日本大学学生FD CHAmiT で作成された学部に対する学生からの改善・要望等の意見を学生・教員・職員の三者で協議し、回答書を作成し学部ホームページに公開している。

### 点検・評価項目②

**大学の諸活動の状況等を適切に公表し、社会に対する説明責任を果たしていること。**

＜評価の視点＞

- ・教育研究活動、自己点検・評価結果、財務、その他の諸活動の状況等を適切に公表し、社会に対する説明責任を果たしているか。
- ・教育研究活動の情報として、学生の学習実態、学習上の成果に関わる情報を社会に分かりやすく公表しているか。

⑨ 学部等ホームページに公表している学校教育法施行規則第172条の2第1項に定める以下の教育情報は、最新の情報に更新されていますか。

- (1) 教育研究上の目的
- (2) 教育研究上の基本組織
- (3) 卒業の認定に関する方針
- (4) 教育課程の編成及び実施に関する方針
- (5) 入学者の受入れに関する方針
- (6) 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績
- (7) 入学者の数、収容定員及び在学する学生の数
- (8) 卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況
- (9) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画
- (10) 成績評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準
- (11) 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境
- (12) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用
- (13) 修学支援、生活支援、進路支援その他の学生支援

[自己評価]

- 全ての項目が更新されている。
- 一部の項目が更新されていない。
- その他回答

### 点検・評価項目③

**内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い、改善・向上に向けた取組を行っていること。**

＜評価の視点＞

- ・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し、その結果に基づき、教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪ 学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか、どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また、その結果、改善・向上を図った事例等について記述してください。

理工学部内部質保証推進委員会が理工学部情報統括委員会（IR委員会）の取組内容、SD研修会・FD研修会の開催結果等について報告を受け、点検・評価を行っている。特にIR委員会・FD委員会等が中心に取りまとめた教学IRに関する分析結果は所管部署（委員会・課）へ反映され、一定の効果が出ている。また、IR委員会が報告した「各委員会における取組達成状況」は令和6年度の本学部運営方針に反映された。今後も学部全体として組織的に内部質保証に関するサイクルをより一層機能させるため、各部署から理工学部内部質保証推進委員会への適切な報告と、情報集約による、更なる教育力向上を目指す。

## 2 長所・特色・問題点

【長所・特色】

令和4年度から、理工学部内部質保証推進委員会が中心となり、理工学部の内部質保証の推進を図る一環として、自己点検・評価の客観性・妥当性を高めるために外部からの評価を取り入れている。外部評価者からの意見等を踏まえた検証を継続的に毎年度実施することで、教育の質保証及び向上につながることを期待される。

### 基準3 教育研究組織

#### 1 現状分析

**点検・評価項目①**

**大学の理念・目的に照らして、学部・研究科、附置研究所、センターその他の組織の設置状況が適切であること。**

＜評価の視点＞

- ・大学の理念・目的を踏まえ、また、学問の動向や社会的要請等に配慮した上で、教育研究組織（学部・研究科や附置研究所、センター等）を構成しているか。

**点検・評価項目②**

**教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し、その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。**

＜評価の視点＞

- ・教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。
- ・点検・評価の結果を活用して、教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的

な取組へとつなげているか。

⑫ 学問の動向や社会的要請等に対応すべく、学科や研究所の新設、学科の改組等、教育研究組織の見直しについて、どの組織が、どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また、その結果、改善・向上を図った事例等について記述してください。

学科組織の適切性については、学務委員会、理工学部情報統括委員会（IR委員会）、執行部及び入学試験実行委員会が中心となり、カリキュラムの検討及び入学定員充足率・収容定員に対するの学生充足率等の学科定員管理から検討を行っている。

研究組織の適切性については、産官学連携研究の拠点形成に係る機能強化を図ることを目的とし、研究推進戦略委員会における検討を経て、令和4年度から理工学研究所に研究支援センターを設置して、学部内公募により、受託・共同研究を実施する研究者に研究スタジオ（2居室）を供して研究活動の促進に寄与している。

## 2 長所・特色・問題点

### 【長所・特色】

理工学研究所研究支援センターは、その利用目的を受託・共同研究の実施に特化することにより、産官学連携研究の更なる充実が期待できる。

## 基準4 教育・学習

### 1 現状分析

#### 点検・評価項目①

達成すべき学習成果を明確にし、教育・学習の基本的な在り方を示していること。

<評価の視点>

- ・卒業の認定に関する方針において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学習成果を明らかにしているか。また、教育課程の編成及び実施に関する方針において、学習成果を達成するために必要な教育課程及び教育・学習の方法を明確にしているか。
- ・上記の学習成果は授与する学位にふさわしいか。

[卒業の認定に関する方針について]（学士課程）

⑬ 授与する学位ごとに定めていますか。

[自己評価]

- 定めている。
- 定めていない。
- その他回答

⑭ 日本大学教育憲章の「自主創造」の8つの能力との関連性が明確ですか。

[自己評価]

- 明確である。
- 見直す必要がある。

<input type="checkbox"/> その他回答 ⑮ 「学生が修得すべき知識」、「技能」、「態度」等、当該学位にふさわしい学習成果を示していますか。  [自己評価] <input checked="" type="checkbox"/> 示している。 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある。 <input type="checkbox"/> その他回答
⑯ 能力（コンピテンシー）の表現は、「～できる」又は「～を身に付ける」に統一されていますか。  [自己評価] <input checked="" type="checkbox"/> 統一されている。 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある。 <input type="checkbox"/> その他回答
⑰ 「何ができるようになるか」に力点を置き、学生が身に付けるべき資質、能力の目標（学修成果）が明確化されていますか。  [自己評価] <input checked="" type="checkbox"/> 明確化されている。 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある。 <input type="checkbox"/> その他回答
⑱ ステークホルダーが見て、分かりやすく、理解しやすい表現・内容となっていますか。  [自己評価] <input checked="" type="checkbox"/> なっている。 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある。 <input type="checkbox"/> その他回答

[教育課程の編成及び実施に関する方針について]（学士課程）

⑲ 授与する学位ごとに定めていますか。  [自己評価] <input checked="" type="checkbox"/> 定めている。 <input type="checkbox"/> 定めていない。 <input type="checkbox"/> その他回答
⑳ 卒業の認定に関する方針との関連性が明確ですか。  [自己評価] <input checked="" type="checkbox"/> 明確である。 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある。 <input type="checkbox"/> その他回答

⑲ 卒業の認定に関する方針に基づき、「教育課程の体系」、「教育内容」、「教育課程を構成する授業科目区分」、「授業形態」、「学修成果の評価」を示していますか。

[自己評価]

- 示している  
見直す必要がある  
その他回答

⑳ ステークホルダーが見て、分かりやすく、理解しやすい表現・内容となっていますか。

[自己評価]

- なっている。  
見直す必要がある。  
その他回答

### 点検・評価項目②

**学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。**

<評価の視点>

- ・学習成果の達成につながるよう、教育課程の編成及び実施に関する方針に沿って授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

⑳ 各授業科目は、授与する学位（又は、課程・専攻）と整合していますか。

[自己評価]

- 整合している。  
見直す必要がある。  
その他回答

㉑ 各授業科目は、体系的に編成されていますか。

[自己評価]

- 編成されている。  
見直す必要がある。  
その他回答

㉒ 各授業科目の到達目標が、シラバスに明示されていますか。

[自己評価]

- 明示されている。  
見直す必要がある。  
その他回答

㉓ 各授業科目は、学習時間を考慮し、授業期間及び単位が設定されていますか。

[自己評価]

- 設定されている。
- 見直す必要がある。
- その他回答

### 点検・評価項目③

課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態, 方法をとっていること。また, 学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。

<評価の視点>

- ・ 授業形態, 授業方法が学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果及び教育課程の編成及び実施に関する方針に応じたものであり, 期待された効果が得られているか。
- ・ 授業の目的が効果的に達成できるよう, 学生の多様性を踏まえた対応や学生に対する適切な指導等を行い, それによって学生が意欲的かつ効果的に学習できているか。

③④ 学習状況に応じたクラス分けなど, 学生の多様性を踏まえた対応をしていますか。

[自己評価]

- 対応している。
- 見直す必要がある。
- その他回答

③⑤ シラバスは, 学生が授業の内容や目的を理解し, 効果的に学習を進めるために十分な内容ですか。

[自己評価]

- 十分である。
- 見直す必要がある。
- その他回答

③⑥ 学生が意欲的かつ効果的に学習できるように, 以下の項目について取り組んでいますか。

- (1) 授業の履修に関する指導
- (2) 学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認
- (3) 授業外学習に資するフィードバック

[自己評価]

- 全ての項目について取り組んでいる。
- 一部の項目について取り組んでいない。
- 上記以外の事項について取り組んでいる。
- その他回答

### 点検・評価項目④

成績評価, 単位認定及び学位授与を適切に行っていること。

<評価の視点>

- ・成績評価及び単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施しているか。
- ・成績評価及び単位認定に係る基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示しているか。
- ・既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等を適切に行っているか。
- ・学位授与における実施手続及び体制が明確であるか。
- ・卒業の認定に関する方針に則して、適切に学位を授与しているか。

⑳ 成績評価及び単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施していますか。

[自己評価]

- 実施している。
- 見直す必要がある。
- その他回答

㉑ 成績評価及び単位認定に係る基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示していますか。

[自己評価]

- 明示している。
- 見直す必要がある。
- その他回答

㉒ 既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等を、客観的かつ厳格で、公正、公平に行っていますか。

[自己評価]

- 行っている。
- 見直す必要がある。
- その他回答

㉓ 学位授与における実施手続及び体制が明確ですか。

[自己評価]

- 明確である。
- 見直す必要がある。
- その他回答

**点検・評価項目⑤**

**卒業の認定に関する方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。**

<評価の視点>

- ・学習成果を把握・評価する目的や指標、方法等について考えを明確にしているか。
- ・学習成果を把握・評価する指標や方法は、卒業の認定に関する方針に定めた学習成果に照らして適切なものか。

・指標や方法を適切に用いて学習成果を把握・評価し、学部として設定する目的に応じた活用を図っているか。

④③ 学習成果を把握・評価する目的や指標，方法について記述してください。

各学科に「卒業到達度評価科目」を設置し学習成果の把握，評価を行っている。また，GPS-Academic 実施結果を分析することにより，学習成果の把握が期待できる。

④④ 上記指標や方法を用いて把握・評価した学習成果を，学部等でどのように活用しているか記述してください。

学部単位の活用は行っておらず，活用方法は各学科に委ねている。GPS-Academic 実施結果を分析することにより学部単位での活用も期待できる。

### 点検・評価項目⑥

**教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。**

＜評価の視点＞

- ・教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。
- ・課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。
- ・自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。

⑤① 教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

学務委員会を中心に，完成年度を迎えた令和2年度カリキュラムの検証をしつつ，令和8年度のカリキュラムの変更にに向けて編成方針を策定している。

⑤② 点検・評価するに当たり，学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報をどのように活用しているか記述してください。

令和8年度のカリキュラム編成方針の策定に当たって，必要に応じて活用する。

⑤③ 教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

自己点検・評価の結果に基づき，教育課程の改善，見直しを行っている。カリキュラムの見直しは，資格取得に係る変更以外は，完成年度までの各学科等における検証結果を基に，学務委員会において，日本大学教育憲章，主にカリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシー並びに（人材養成その他）教育研究上の目的を踏まえた分析を行う。

成績優秀者に対する履修登録単位数の上限を緩和する条件について、令和8年度カリキュラムに合わせて見直すよう検討をしており、単位の実質化を図る。

## 2 長所・特色・問題点

### 【問題点】

大学基準協会から、成績優秀者に対する履修登録単位数の上限を緩和する条件について、単位の実質化の検証を継続的に求められているため、引き続き対応を行う。

## 基準5 学生の受け入れ

### 1 現状分析

#### 点検・評価項目①

**入学者の受け入れに関する方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施していること。**

#### <評価の視点>

- ・入学者の受け入れに関する方針は、学位課程ごと（学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程）に設定しているか。
- ・入学者の受け入れに関する方針は、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやすく示しているか。
- ・入学者の受け入れに関する方針に沿い、適切な体制・仕組みを構築して入学者選抜を公平、公正に実施しているか。
- ・入学者選抜に当たり、特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整備しているか。
- ・全ての志願者に対して分かりやすく情報提供しているか。

⑤4 入学者の受け入れに関する方針を学位課程ごと（学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程）に設定していますか。

[自己評価]

- 設定している。  
 設定していない。  
 その他回答

⑤5 入学者の受け入れに関する方針には、卒業の認定に関する方針及び教育課程の編成及び実施に関する方針を踏まえた「入学前の学習歴」、「学力水準」、「能力等の求める学生像」及び「入学希望者に求める水準等の判定方法」を志願者等に理解しやすく示していますか。

[自己評価]

- 示している。  
 見直す必要がある。  
 その他回答

志願者等に理解しやすい内容にはなっているが、「入学前の学習歴」及び「学力水準」までは示していない。

⑤6 入学者選抜を、体制・仕組みに基づき公平、公正に実施していますか。

[自己評価]  
実施している。  
見直す必要がある。  
その他回答

㉞ 入学者選抜に当たり、特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整備していますか。

[自己評価]  
整備している。  
見直す必要がある。  
その他回答

**点検・評価項目②**  
**適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していること。**  
 <評価の視点>  
 ・ 学士課程全体及び各学部・学科並びに各研究科・専攻の入学者数や在籍学生数を適正に維持し、大幅な定員超過や定員未充足の場合には対策をとっているか。

大学基礎データ（表2）

学部・学科等名称	入学定員充足率の5年平均 (令和2年度～令和6年度)	収容定員充足率 (令和6年度)
理工学部	1.05	1.10
理工学部土木工学科	1.04	1.10
理工学部交通システム工学科	1.01	1.04
理工学部建築学科	1.05	1.15
理工学部海洋建築工学科	1.08	1.19
理工学部まちづくり工学科	1.03	1.10
理工学部機械工学科	1.02	1.07
理工学部精密機械工学科	1.07	1.10
理工学部航空宇宙工学科	0.96	0.96
理工学部電気工学科	1.06	1.09
理工学部電子工学科	1.02	1.06
理工学部応用情報工学科	1.12	1.19
理工学部物質応用化学科	1.05	1.08
理工学部物理学科	1.05	1.10
理工学部数学科	1.12	1.19

㉟ 「大学基準協会の評価の指針」により、定員超過あるいは定員未充足の場合は、どのような対策をとっているか記述してください。

該当なし

### 点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

<評価の視点>

- ・学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。
- ・点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取組へとつなげているか。

⑤ 学生の受け入れに関わる事項について、どの組織が、どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また、その結果、改善・向上を図った事例等について記述してください。

入試実施に関わる業務を担う入学試験実行委員会において、入学試験結果報告書を作成している。また、入学者選抜の全般に関しての検証を行い、各入試別の実施内容と改善内容についての報告書の作成を行い、次年度に反映している。

適切な入学手続者数の確保については、同委員会で合格予定者の判定に関わる情報の処理作業を行い、合格者の手続率に関する詳細なデータの蓄積により、入学手続者の動向予測を行い、募集人員に対して適切な入学手続者数の確保を図っている。本予測方法の適切性及び公正性は、学部長・両校舎学部長・事務局長により確認・承認され、入学試験判定委員会及び教授会（代表会議）で報告している。また、安定的な入学者確保のため、令和8年度以降の入学者選抜において新たな選抜方式を導入することを検討している。

志願者の募集については、広報委員会において、入試広報の在り方を協議し募集活動を行っている。

## 2 長所・特色・問題点

特になし

### 基準6 教員・教員組織

#### 1 現状分析

### 点検・評価項目①

教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。

<評価の視点>

- ・「学部等教員組織編制方針」に基づき、教員組織を編制しているか。
  - ▶専任教員数の遵守、教員の構成
  - ▶教育効果に配慮したクラス編成、専任教員の授業負担への配慮
  - ▶教員の適切な役割分担及び責任の所在の明確化
  - ▶教員の資質向上

▶その他、学部等として重視するポイント

- ・教員は職員と役割分担し、それぞれの責任を明確にしながら協働・連携することで、組織的かつ効果的な教育研究活動を実現しているか。
- ・TA、SA又はGSAを置いている場合、ガイダンスや研修を実施した上で業務をさせているか。

(学士課程)

⑥⑩ 学部・各学科における専任教員数は、設置基準を満たしていますか。

[自己評価]

- 全ての学科において満たしている。
- 一部の学科において満たしていない。
- その他回答

(学士課程)

⑥⑪ 学部・各学科における教授数は、設置基準を満たしていますか。

[自己評価]

- 全ての学科において満たしている。
- 一部の学科において満たしていない。
- その他回答

⑥⑦ 特定の教員に過度な授業負担が生じないように、どのように配慮しているか記述してください。

「理工学部専任教員の授業担当時間ならびに超過講義手当支給に関する要項」に基づき、講義持ち時間が毎週10時間(5講義)を下回る場合、又は、毎週20時間(10講義)を上回る場合は、教室主任等を経て理工学部長の許可を得て実施している。

⑥⑧ 教育研究活動を実現するために、教員と職員とがどのように役割分担をし、それぞれの責任を明確にし、協働・連携しているか記述してください。

外部資金(研究費)の応募時に事務局が申請書類の記載事項の事務的な確認を行い、教員(研究者)が研究内容の記載に重点を置くことができるように支援することは基本であるが、特に科学研究費助成事業の応募において、事務的な項目以外の記載項目・条件が多岐・多量であるため、希望する教員については、研究内容に係る記載項目に関して、記載すべき条件の網羅という観点から事務局でチェックする支援を行うことにより、外部資金獲得という共通の目的における教職員の協働・連携作業を実施している。

⑥⑨ TA、SA又はGSAを置いている場合、どのようなガイダンスや研修を実施し、どのような業務をさせているか記述してください。

TAは置いている。TAに従事する学生には専攻主任宛てに雇用契約書等と併せてTAの心得を配布し、専攻にてTAへ説明を行っている。業務内容は理工学部及び短期大学部(船橋校舎)の学生に対する助言や実験・演習等の補助業務を主としている。

SA及びGSAは、置いていない。

### 点検・評価項目②

教員の募集，採用，昇任等を適切に行っていること。

<評価の視点>

- ・教員の募集，採用，昇任等に関わる明確な基準及び手続に沿い，公正性に配慮しながら人事を行っているか。
- ・年齢構成に著しい偏りが生じないように人事を行っているか。また，性別など教員の多様性に配慮しているか。

⑦ 教員を採用するに当たり，どのような方法（公募等）で募集しているか記述してください。

募集方法については，各学科に委ねられているが，HPや独立行政法人科学技術振興機構の研究者人材データベースや学会により，公募情報を掲載し募集を行っている。

⑧ 「教員の募集」，「教員の採用」及び「教員の昇任」について，明文化された基準及び手続に従い公正に行っていますか。

[自己評価]

公正に行っている。

基準や手続き方法を見直す必要がある。

その他回答

⑨ 教員の年齢構成に著しい偏りがないように，どのように取り組んでいるか記述してください。

毎年6月に，各学科から次年度の教員人事計画を学部へ提出し，教員人事委員会が教員の年齢構成を含めその可否を検討し，検討結果を学科に通知したのち，各学科が募集活動等を開始することとしている。

⑩ 教員の男女比に著しい偏りがないように，どのように取り組んでいるか記述してください。

毎年6月に，各学科から次年度の教員人事計画を学部へ提出し，教員人事委員会が状況によっては教員の男女比を含めて検討し，検討結果を学科に伝えたのち，各学科が募集活動等を開始することとしている。ただし，理工系の女性研究者の少なさから，学部から学科に女性教員の獲得を促し，学科が女性教員の獲得を目指していても，採用に至らないことも多い。

### 点検・評価項目③

教育研究活動等の改善・向上，活性化につながる取組を組織的かつ多面的に実施し，教員の資質向上につなげていること。

<評価の視点>

- ・教員の教育能力の向上，教育課程や授業方法の開発及び改善につなげる組織的な取組を行い，成果を得ているか。
- ・教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために，組織的な取組を行い，成果を得ているか。
- ・大学としての考えに応じて教員の業績を評価する仕組みを導入し，教育活動，研究活動等

の活性化を図ることに寄与しているか。

⑦⑤ 教員の教育能力の向上，教育課程や授業方法の開発及び改善につなげるために，どの組織が，どのように取り組み，その結果どのような成果を得ているか記述してください。

大学教員としてのスキルアップを目的として「大学教員としての能力開発」をテーマに新任専任教員を対象としたFD研修会を例年8月末から9月上旬までに実施している。研修内容は，教授法の在り方に関して，参加者自身による模擬授業のワークショップ，外部講師による教授法とクラスマネジメントに関する講演，さらに意見交換を行っている。

また，例年3月に開催しているFD研修会では，「教育方法の改善」をテーマに一般教育，各学科及び各専攻のFD活動について，特徴的な取組内容等を報告し，意見・情報交換を行い，その結果を教授会（及び大学院分科委員会）において報告している。

⑦⑥ 教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために，どの組織が，どのように取り組み，その結果どのような成果を得ているか記述してください。

教員の昇格等における評価基準において，「研究貢献」，「教育貢献」及び「学内・社会貢献」をポイント化し，教員資格審査委員会及び教授会の審査において確認している。これらの基準を満たさなければ昇格や定年退職後の特任教授の委嘱が認められないため，一定程度の効果があるものと思料される。

あわせて，教員の教育活動，研究活動，社会活動等の活性化を図る取組として，本部による全学的な取組に即して，専任教員は，「日本大学研究者情報システム」及び国立研究開発法人科学技術振興機構及び国立情報学研究所が運営する研究者総覧「research map」への情報提供を通して，研究活動や社会活動等の学内外への発信を実施している。

⑦⑦ 教員の教育活動，研究活動，社会活動等に関する業績について，どの組織が，どのように評価しているか記述してください。

教育活動については，令和6年度から「日本大学理工学部教育貢献賞」制度を設けて，学生に対する教育の質の向上を目指し，教育貢献が著しい専任教員を顕彰することとした。

教員の昇格等における評価基準は，「研究貢献」，「教育貢献」及び「学内・社会貢献」が3つの大項目として定められ，さらに各大項目に2～5の中項目を定め，学科により増減はあるが30以上の小項目それぞれについて基準点数を定め，教員の功績を論文数だけではない視点から把握できるようにしている。これらの結果を記載したワークシートを，教員資格審査の評価資料として教員資格審査委員会及び教授会で使用している。

日本大学研究者情報システムの運用により，研究活動における社会連携・社会貢献に係る情報を幅広く発信することで，学内外の評価に係る情報を提供する場としての整備がなされている。

**点検・評価項目④**

**教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。**

＜評価の視点＞

- ・教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。
- ・点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組む，効果的な取

組へとつなげているか。

㊦ 教員組織に関わる事項について、どの組織が、どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また、その結果、改善・向上を図った事例等について記述してください。

教員人事委員会が毎年度学科ごとに人事計画の確認を行っている。1学科において設置基準上の教授数を満たさない可能性が生じた際には、教員人事委員会が主導して学部として対応を行った。

## 2 長所・特色・問題点

### 【長所・特色】

教員の採用及び昇格に当たっての手續は、理工学部教員資格審査に関する内規により明確化されており、「教員規程」及び「理工学部教員資格審査に関する内規」に加え、「理工学部教員評価基準」で教育者・研究者として必要な能力を明示して審査している点は、長所ないし特色である。

### 【問題点】

教員の能力や資質を全て数値化することは難しく、これらの基準が最低基準でしかない点や、それにもかかわらず100以上の記入箇所があることから、今後は簡素化を含めた検討が必要ということが懸念事項である。

## 基準7 学生支援

### 1 現状分析

#### 点検・評価項目①

学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備し、適切に実施していること。

#### <評価の視点>

- ・学生支援に関する大学としての方針に基づき、各種の学生支援体制を整備し、教員と職員がそれぞれ役割を果たしながら支援を行っているか。
- ・各種の学生支援に当たり、専門的な知識・能力や経験を有する者を含む必要なスタッフを配置しているか。
- ・学生支援に関する情報を学生に積極的に提供するとともに、その支援は学生の利用しやすさに配慮しているか。

#### [修学支援（学習面）]

- ・学生が能力に応じて自律的に学習を進められるようサポートする仕組みを整備しているか（補習教育、補充教育、学習に関わる相談等）。
- ・障がいのある学生や留学生の実態に応じ、それらの学生に対する修学支援を行っているか。
- ・学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）に対し、その実態に応じて対応しているか。

#### [修学支援（経済面）]

- ・学生に対する経済的支援（授業料減免、学内外の奨学金を通じた支援等）を、学生の実態等に応じて行っているか。

[生活支援]

- ・学生の心身の健康、保健衛生等に関わる指導相談を、学生の実態に応じて行っているか。
- ・学生の孤立を防止するため、人間関係構築につながる措置（学生の交流機会の確保等）を必要に応じて行っているか。

[進路支援]

- ・各学位課程（学士課程、修士課程や博士課程等）や分野等における必要性、個々の学生の特性等に応じ、就職支援のほか、職業的自立に向けたキャリア教育・キャリア形成支援等の進路支援を行っているか。

[その他支援]

- ・上記のほか、部活動・ボランティア活動等の正課外における学生の活動への支援等、必要に応じた支援を行っているか。

[学生の基本的人権の保障]

- ・ハラスメント防止、プライバシー権の保障や苦情申立への対応等、学生の基本的人権の保障を図る取組を行っているか。

[修学支援（学習面）]

- ㉞ 学生が能力に応じて自律的に学習を進められるように、どのようにサポートしているか記述してください（補習教育、補充教育、学習に関わる相談）。

各校舎にパワーアップセンター（PUC）を設置し、船橋校舎では、英語・数学・物理・化学に不安や苦手意識のある学生向けに基礎講座、個別指導及び English Lounge を用意している。また、駿河台校舎では、個別指導として主に数学基礎、物理基礎、化学基礎、英語基礎及び English Lounge を設けている。さらに、数的処理、公務員試験対策、TOEIC対策・論文指導の支援も行っている。

自主創造の精神に基づき「ものづくり」や実体験を通じたきめ細やかな教育を行ってきた。未来博士工房は、学生自らの創造・実践を通じた取組とその実現を支援する授業と連携した教育プログラムであり、各々の学生の持つ潜在能力の覚醒に大きな成果を上げており、優秀者には「日本大学理工学部学生博士賞」を授与し、表彰している。

また、学生の利便性を考慮し、教務関係の質問等を Web 上でも受け付けるために、理工学部ホームページに問合せフォームや個別にメールアドレスを公開しており、寄せられた各種質問等について対応を行っている。

- ㉟ 留年者について、どのように状況を把握し、どのように対応しているか記述してください。

留年者については成績不振の学生と同じく面談を実施している。実施状況については各学科から教務課へ報告されている。

- ㊱ 退学希望者について、どのように状況を把握し、どのように対応しているか記述してください。

退学の申出があった場合、退学願提出時又は提出後にクラス担任若しくは研究指導教員と面談を行い、その内容を退学願に面談者が記載の上、学科主任の確認印を押印し教務課へ提出するようになっている。

- ㊲ 留年者や退学希望者の減少に向けて、どのように取り組んでいるか記述してください。

教育方法や評価方法の改善を目的として、各学科へ前年度の科目ごとの成績判定状況及び科目別GPAデータを提供し、学科におけるデータ分析とその活用を促進している。また、学期別の履修科目登録単位数の上限（CAP制）を設定し、一時的な学業成績不振に陥ったとしても当該年度内にその事由を解消できるようにしている。これらの方策を実施して卒業延期者及び退学者の抑制に努めている。

学業成績不振者への対策として、各学科教員による面談の実施、オフィス・アワーの設定とシラバスへの明記、パワーアップセンターによる補習教育の実施、1年次の授業科目である「自主創造の基礎」における導入教育（学修ガイダンス）の実施、e-learning導入等の学習支援体制の確立及び学科間の転科及び通信教育部等への転部制度を活用している。なお、成績不振者への個別指導については、各学科・学年の面談基準に基づき実施し、退学者の抑制を図っている。

### [修学支援（経済面）]

⑧③ 学生に対して、経済的支援（授業料減免、学内外の奨学金を通じた支援を除く）をどのように行っているか記述してください。

公益財団法人日本国際教育支援協会が運営する「学生教育研究災害傷害保険」に、全学生を対象に一括で加入している。当該保険では、正課（講義、実験、実習、演習及び実技）、学校行事、課外活動、通学中及びインターンシップ等において発生した偶発的な事故による学生本人の死亡又は怪我、他人に怪我を負わせた場合又は他人の財物を損壊した場合等においての賠償責任についても、その補償対象としている。

理工系教育では、大型の実験機器を使用するなどの安全配慮が必要な実験や校舎間の移動や学外での調査研究も多く、参加時に加入が求められることが多いインターンシップにおける補償も含め、安心して修学できる環境を整備するための保険料を本学部で負担することにより、経済的支援を実施している。

駿河台及び船橋校舎では学内の購買部にて、文具、雑貨に加えて設計製図に用いる専門用具、模型作成に必要な部材及び論文製本等を市場価格から2割程度安価に販売し、修学に係る経済的支援としている。

### [生活支援]

⑧④ 学生の孤立化を防止するため、人間関係構築につながる措置（学生の交流機会の確保等）をどのように行っているか記述してください。

学科・学年別にクラス担任を配置している。クラス担任を中心とした学期ごとのガイダンス、上級学年におけるゼミナールや研究室をはじめとして、修学上の相談及び指導を含めた各学生へのフォローアップを行っている。また、学内の各種運動施設を利用したスポーツ大会等のレクリエーションやセミナーハウスを利用した合宿や研修も実施しており、学生の孤立化を防止し、人間関係の構築につながる交流機会を提供している。

運動、文化、学術系などの多様な学生団体（サークル）の活動においては、新入生勧誘の機会、部室等の活動場所の提供及び補助金により奨励し、学生自身の趣味や能力、学業との関係を踏まえながら、豊かな人間関係を構築するための機会も提供している。

なお、学生の心身の健康、保健衛生等に関わる指導相談については、主に両校舎の保健室及び学生支援室において対応している。保健室及び学生支援室では、内科及び精神科の医師、看護師、カウンセラー（臨床心理士、公認心理師）及び学科からの相談員を配置して心身の健康及び保健衛生等の指導及び相談に対応している。開室時間は、平日日中に加えて保健室については実験での負傷も多いため、土曜日午前も対応を行っている。

健康診断受診時には、通常の健診項目に加えて「日本大学メンタルヘルスチェック（K6）」を受診させ、リスクが高いと判断された学生については学生支援室でのカウンセリングを促すなどのフォローを実施している。

### [進路支援]

㉔ キャリア教育・キャリア形成支援等の進路支援をどのように行っているか記述してください。

就職指導課及び船橋校舎キャリア支援センターを設置し、学生のキャリア教育・キャリア形成支援等の進路支援に対応する体制を整えている。また、個別相談コーナー（模擬面接含む）を対面・オンラインの双方により対応し、事前 Web 予約システムにも応じて、多忙な理系学生への利便性を確保している。なお、令和元年度から、就職指導課特設 Web サイト（就職担当の教職員及び在学生のみ閲覧可能なグーグルクラスルーム）を通じて、学生がいつでも、どこでも就職・キャリア支援のコンテンツにアクセスできるサイトの運用を開始しており、各種ガイダンスのオンデマンド配信、資料の公開及び学部ポータルサイトからのお知らせと連携（リンク）によって、情報の認識・利便性向上に努めている。

また、ガイダンス等については、キャリア意識醸成や就職活動支援のため多様な施策、理系・技術職特化の就職・キャリア支援プログラムを提供している。さらに、理工学部独自の合同会社説明会・企業セミナーの開催や国家公務員採用試験対策講座などを開講している。

### [その他支援]

㉕ 正課外における部活動・ボランティア活動等の学生の活動について、どのように活性化を図っているか記述してください。

課外活動の主体となる学生団体（サークル）には、本格的なレース活動を行う自動車部や鳥人間コンテストへ出場している航空研究会、学生フォーミュラーカー選手権に出場している円陣会等をはじめとした授業や実験で得られた知識や技術を深化させ、エンジニアの育成に有益な活動体験とチームワークを育むことができる団体を有することが特徴となっている。

なお、学生団体の活動実績に応じたサークル室の提供、大会参加費や消耗品費等の活動経費に対する補助の実施や顕著な社会貢献活動及び大学の名誉を高揚する有益な活動と評価された場合は、その成績に応じて特別補助金を支給する制度を設けるなどの課外活動の活性化を図っている。

ボランティア活動については、板橋区と連携し板橋区立中学校の学習支援員として登録された学生に対し、学部から活動場所（区立中学校）までの交通費を補助して活動に伴う経済的負担を軽減することにより活性化を図っている。

### [学生の基本的な人権の保障]

⑧⑦ ハラスメント防止，プライバシー権の保障や苦情申立への対応等，学生の基本的人権の保障を図る取組について記述してください。

学生からの相談対応の基本的な態度や考え方などを修得するための本学の学生相談研修会の受講を奨励して，日本大学インターカークの認定を促している。両校舎の学生支援室には，インターカーク認定者を相談員として配置し，学修・学生生活上の各種問題についての相談に対応している。

初年次教育の授業時間において，学生保健委員会が制作したテキストを参考に「学生生活の安全・健康について」の講義を行っている。内容は，各種ハラスメントの防止，プライバシー権の保障及び苦情申立窓口を含んだ内容となっている。

さらに，教職員を対象に現代の学生を理解するために，毎年度，学識者や学生支援室カウンセラーを講師として迎え，学生支援の事例紹介を交えた学生理解講座（オンライン配信含む）を開催することにより，対応方法の改善に取り組んでいる。

### 点検・評価項目②

**学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。**

＜評価の視点＞

- ・学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。
- ・点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑧⑧ 学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

学生保健委員会においては，学部内の学生傷害事故等調査委員会にて報告された実験中に発生した傷害事故における原因究明と対策案を審議検討して，対策案を学部内で共有し，実験装置の取扱い手順や方法の改善を図る等，学部内で改めての注意喚起を行う契機とし，事故防止に向けての取組を行っている。

毎年4月に実施する「日本大学メンタルヘルスチェック（K6）」においては，数値や分布傾向等を把握し，リスクが高いと思われる学生への対応について検討を行っている。

前述の本委員会で作成した「学生生活の安全・健康学」の講義では，各学科に実施状況を確認し，受講後の理解度を測るための小テストの実施や担当した教員へのアンケートを行い，次年度への改善内容等を検討し，次年度の編集時に反映している。

学生生活委員会においては，学生団体（サークル）の活動実績に応じ，昇格，降格，廃部や活動実績に応じた補助金支給額の審議を行っている。また，学部祭（桜理祭）の運営に当たっては，学生の実行委員会代表者と学生生活委員会による桜理祭協議会を校舎ごとに開催し，企画内容について確認，審議の上，学部祭（桜理祭）実施に向けて取り組んでいる。

障がい学生支援委員会においては，決定した合理的配慮の実施状況を，支援対象者及び支援実施者と面談等を行ってモニタリングを実施している。学生支援実施状況に問題がある場合や追加等の要望がある場合には，再度委員会に諮る等の対応を行うこととしている。

また、キャリア支援については、就職指導委員会で、採用活動の動向及び公務員採用試験の動向等を踏まえつつ、訪問企業からのヒアリングに基づく本学部学生への期待度や学生相談から得られる学生の動向等に基づき点検を行い、その適応度による評価をしている。さらに、当該評価により、講座内容や学生対応について協議し、キャリア支援に関する改善・向上を図っている。

## 2 長所・特色・問題点

### 【長所・特色】

本学部における学生支援室は、駿河台・船橋の両校舎とも週5日間、大学本部から派遣された専門カウンセラー（臨床心理士、公認心理師）の対応だけでなく、本学のインターカーとして認定を受けた各学科専任教員が修学上の相談に対応し、保健室の内科及び精神科医師、看護師によって運営されている。各構成員が、各々の観点から、相互に連携して各学生の支援に対応していることが長所・特色となっている。

就職支援における長所・特色として、就職指導委員会、就職指導課と教職員が密接に連携する組織体制をとり、「技術系」に特化した適切な進路選択・就職活動に関わる指導・ガイダンスを実施している。「就職ガイダンス」、「進路ガイダンス」及び「進学説明会」などを開催し、多種多様な切り口から就職・キャリア支援をしている。

また、各学科に配置されている就職担当教員は、先進技術動向の把握、研究室単位による卒業生との密接な仲介により、技術職・エンジニア輩出に向けた極めて専門性の高い情報取得と適時適切な学生アドバイスを行っている。

### 【問題点】

駿河台校舎は都市型キャンパスであるため、スペースの制約が多く、学生支援室も狭あいであるため、相談希望者が気楽に訪れることが難しい環境にある。近年、全国的な傾向と同様に、本学部においてもカウンセリング及び合理的配慮の支援希望件数が増加しているため、来室件数を注視しつつ更なる環境整備が必要と認識している。

令和6年度、障害者差別解消法による合理的配慮が私立大学においても義務化されたため、更なる教職員の意識向上が課題となっている。

就職支援における問題点として、マイナビなどの就職情報サイトで手軽に就職に関する情報を学生が得られることもあり、コロナ禍を経て、近年は就職・キャリア支援プログラムへの参加学生に減少傾向が見られ、特に令和5年度は大きく減少したことが挙げられる。上記情報サイトだけでは得られない理工学部在学学生に特化した情報を提供する就職講座等もあるため、大学が企画する講座等への積極的な参加をより促したい。

## 基準8 教育研究等環境

### 1 現状分析

#### 点検・評価項目①

**教育研究等環境の整備に関する方針に基づき、学生の学習、教員の教育研究活動に必要な環境を適切に整備していること。**

#### <評価の視点>

- ・教育研究等環境の整備に関する方針に基づき、学生の学習環境や教員の教育研究環境を適切に整備しているか。
- ・学生の学習や教員の教育研究活動の必要性に応じてネットワーク環境やICT機器を整備

し技術的な支援を行う等により、それらの活用を促進しているか。  
・学生及び教職員の情報倫理の確立を図るために取り組んでいるか。

89 バリアフリーへの対応をしていますか。

[自己評価]

全ての校舎において対応している。

一部の校舎において対応していない。

現状は多くの学生が授業等で利用する一部の建物についてはバリアフリー化されているが、それ以外の建物については、建替計画等や利用者の要望も加味しながら、適宜予算を申請し、実行していく予定である。

なお、建物以外のバリアフリー対応状況としては、大学本部にて視聴覚に障がいのある学生を主な対象として、音声認識によるテキスト書き出し、音声合成による読み上げを行うアプリのライセンス契約を締結しているため、希望者は両校舎の学生支援室に申し出ることで、その利用が可能となっている。

その他回答

90 施設、設備等の安全・衛生の確保に取り組んでいますか。

[自己評価]

全ての校舎において対応している。

一部の校舎において対応していない。

その他回答

91 施設、設備等の維持及び規定に基づいた管理をしていますか。

[自己評価]

全ての校舎において対応している。

一部の校舎において対応していない。

その他回答

92 学生や教員に対し、ネットワーク環境やICT機器に関する技術的な支援をどのように行っているか記述してください。

ICTを活用した教育支援及びネットワークシステムの発展を図り、本学部の教育・研究の推進に寄与することを目的に設置している情報教育研究センターが中心となり、ネットワーク環境やICT機器の整備を図っている。ネットワーク環境については、オンライン授業等で重要性を増しており、セキュリティ・接続しやすさ・高速化・大容量通信等の向上を図る計画を立案し、順次整備を進めている。

学生向けには、各校舎に設置しているコンピュータ演習室を授業で利用していない時には学生が自由に利用できるように開放しており、専門分野のソフトを活用して課題・レポート等の作成が可能となっている。

また、教職員向けにはオンライン授業・イベントのオンデマンド配信等に対応するための撮影機材等を配備したICT支援室を設置して、活用している。

93 学生の自主的な学習を促進するために、どのように環境整備をしているか記述してください。

各校舎に「パワーアップセンター」を設置している。船橋校舎では、英語・数学・物理・化学に不安や苦手意識のある学生向けに基礎講座、個別指導及び English Lounge を用意している。また、駿河台校舎では、個別指導として主に数学基礎、物理基礎、化学基礎、英語基礎及び English Lounge を用意している。さらに、数的処理、公務員試験対策、TOEIC 対策・論文指導のサポートも行っている。

また、各校舎図書館にはリーディングルームを設け、自習スペースとして活用することができる。

⑨4 学生に対し、情報倫理を遵守させるために、どのように取り組んでいるか記述してください。

本部で策定した「日本大学情報管理宣言」は毎年4月に配布するとともに、各種印刷物等に掲載し、周知を図っている。

⑨5 教職員に対し、情報倫理を遵守させるために、どのように取り組んでいるか記述してください。

大学本部で策定した「日本大学情報管理宣言」は教職員向けに毎年4月に配布するとともに、各種印刷物等に掲載し、周知を図っている。

また、情報教育研究センターが情報管理の徹底、情報セキュリティの強化を図るために「持ち出し情報機器対策ガイドライン」を作成・周知するとともに、「Emotet」等のマルウェア感染防止のための不審メール受信に対する注意喚起を教職員向け回覧で行う等の対応を行っている。

## 点検・評価項目②

**図書館サービス及び学術情報サービスを提供するための体制を備えていること。また、それらを適切に機能させていること。**

<評価の視点>

- ・ 図書その他の学術情報資料を体系的に整備しているか。
- ・ 図書や学術情報資料の利用促進するための取組を図っているか。
- ・ 図書館には、学生及び教員の利用のために、必要な専門的な知識を有する職員を含む人員を適切に配置しているか。また、図書館等の施設環境が適切であるか。

⑨6 図書や学術情報資料の利用促進のために、どのように取り組んでいるか記述してください。

図書や学術情報資料の利用促進のため、入学時に図書館利用に関するガイダンスを行い、基本的な図書館の利用の仕方、学術情報資料の検索の仕方、電子資料の利用の仕方についての理解を深めている。あわせて、館内における利用に関する問い合わせなどに常時対応している。

図書館の開館時間は、駿河台図書館が9時～21時、船橋図書館が9時～20時であるが、更に学習を継続したい利用者のために、リーディングルームの利用時間を8時～22時とし、学習の利便性を高めている。さらに、各教員と連携し、講義に直接的に関連する図書や学術情報資料を揃えると同時に、最新の研究動向に合わせて蔵書を整えている。

⑨7 司書有資格者の人数を記載してください。

駿河台図書館

専任職員：2人，臨時職員：0人，派遣職員：1人，業務委託職員：8人

船橋図書館

専任職員：1人，臨時職員：0人，派遣職員：0人，業務委託職員：9人

⑧ 図書館分館独自の取組について記述してください。

図書館理工学部分館では、船橋図書館がCSTミュージアムを設置しており、本学の教育・研究の成果を展示・公開している。公開は、通常の展示に加え、毎年テーマを定めた特別展を実施している。学内者だけではなく、学外者の見学も受け入れており、オープンキャンパス参加者への公開、地域住民への公開による教育・研究状況の社会的還元、また、学会開催時及び共同研究等における学外研究者への公開等を通じ、広く情報発信を行っている。

### 点検・評価項目③

**研究活動に関わる支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。**

<評価の視点>

- ・研究に対する大学の基本的な考えに沿って、長期的な視点に立った支援や条件整備を十分にいき、各教員の研究活動の活性化につなげているか（教員に対する研究費の支給、研究室の整備、研究時間の確保、専門的な研究支援人材の活用等の人的な支援、若手研究者育成のための仕組みの整備等）。
- ・研究倫理や研究活動の不正防止に関する規程を定め、かつ、学生も含めて研究倫理の遵守を図る取組を行っているか。

⑨ 外部資金獲得のために、どのような学部等独自の制度や取組があるか記述してください。

毎年、科研費審査経験者等による外部資金獲得説明会を開催している。ただし、本部が全学を対象として科研費申請講演会等、外部資金獲得に係る説明会を実施する年度（令和5，6年度）においては、学部における開催に代わる取組として扱っている。

本学部が実施する助成金として、競争的研究費（理工学研究所外部資金獲得（スタートアップ）支援研究助成金，理工学研究所外部資金展開（ステップアップ）支援研究助成金）による外部資金獲得及び更なる上位種目等の獲得支援を実施している。

なお、科研費、受託研究及び研究奨励寄付金の受給者に対して、その受給状況に応じて外部資金獲得に対する採択奨励費を支給することにより、外部資金獲得の活性化を促している。

⑩ 研究時間確保や研究専念期間保障のために、どのような制度や取組があるか記述してください。

大学の制度である海外派遣研究員（短期B：派遣期間15～35日）に準じた理工学部海外派遣研究員制度があり、大学の制度と同様に「学術の研究、学術の国際交流及び大学の発展に資する」という目的の下、海外において専門分野の研究及び調査等に専念することを可能とする機会を確保している。

⑪ 若手研究者育成のために、どのように取り組んでいるか記述してください。

若手研究者の育成と研究活動の充実を図ることを目的に定めた大学の規程に基づき、理工学部において研究プロジェクトの実施に当たり、内規を定め、RAを受け入れる体制を整備している。

⑩ RAやPDを置いている場合、どのようなガイダンスや研修を実施し、どのような業務をさせているか記述してください。

専任の研究者と共通の内容であるコンプライアンス教育及び研究倫理教育の受講を実施している。業務については、受入研究者の指導・管理の下、参画プロジェクトにおける役割分担を担っている。

⑪ 学生に対して、研究倫理を遵守させるために、どのように取り組んでいるか記述してください。

専任教員の指導の下で共同研究等に学生が参画する場合、当該専任教員からの申出があれば、専任教員が受講している内容と共通の研究倫理教育を受講している。

#### 点検・評価項目④

**教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。**

<評価の視点>

- ・研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。
- ・点検・評価の結果を活用して、研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組む、効果的な取組へとつなげているか。

⑫ 研究等環境に関わる事項について、どの組織が、どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また、その結果、改善・向上を図った事例等について記述してください。

図書館に関する事項においては、図書委員会及び同小委員会において、図書館における研究等環境に対する意見を聴取すると同時に、蔵書内容について確認をし、教育・研究上有用な蔵書構成を目指している。また、船橋図書館で管理しているCSTミュージアムにおいては、同運営委員会において、受贈・寄贈品についての評価を行うと同時に、特別展における公開内容を精査している。

研究室の整備において、各府省から受け入れた競争的資金（科学研究費助成事業等）の間接経費の理工学部における使用分を、管理部門等及び研究部門とで原則各50%ずつに配分して使用している。管理部門等においては、学部全体の研究環境改善等のための経費に充て、研究部門においては、当該競争的資金の採択を受けた研究者ごとに配分し研究者自身の研究環境づくりのための経費に充てている。特に後者の研究者個人への配分により、個別の環境に即した自由度の高い環境整備・改善に資する取組として実施している。

## 2 長所・特色・問題点

【長所・特色】

学部が実施する助成金による外部資金の獲得の活性化を図ることに加え、各府省から受け入れた競争的資金の間接経費の研究者への自由度が高い配分とすることにより、研究者の外部資金獲得に対する意識向上に結びついていることが、長所・特色といえる。

#### 【問題点】

電子ジャーナル及び外国雑誌等の購入に当たり、円安傾向が続く為替変動及び出版社の大幅な値上げ要求により、図書予算全体に占める電子ジャーナル及び外国書籍の経費割合が大きくなり、通常の図書購入費用を大きく削減しなければならない点にある。これにより、購入図書はその購入数が大きく制限されることになり、必然的に教育・研究上より有用であると考えられる資料を優先的に購入することになり、大学在学中に、多角的に価値観の醸成や人間性の育成に資するような機会を提供することが難しくなっている。今後は、現在購入している電子資料等の精査を厳格に行い、契約対象の見直しを早急に進めなければならない状況にある。

### 基準 9 社会連携・社会貢献

#### 1 現状分析

##### 点検・評価項目①

**社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取組を実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。**

##### <評価の視点>

- ・学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取組を行い、社会に対し周知しているか。
- ・社会連携・社会貢献に関する取組により、地域や社会の課題解決等に貢献し、学部等の存在価値を高めることにつながっているか。
- ・社会連携・社会貢献に関する情報を社会に対し周知させる取組を行っているか。

⑩ 社会連携・社会貢献に関する情報を社会に対し周知するために、情報にアクセスしやすいように特設サイトを開設しているか。

##### [自己評価]

- 特設サイトを開設している。  
 特設サイトを開設していない。  
 その他回答

##### 点検・評価項目②

**社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。**

##### <評価の視点>

- ・社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。
- ・点検・評価の結果を活用して、社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組む、効果的な取組へとつなげているか。

⑩ 社会連携・社会貢献に関わる事項について、どの組織が、どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また、その結果、改善・向上を図った事例等について記述してください。

社会連携・社会貢献活動の点検・評価方法としては、これまでは各部署(学科・委員会・課等)において事業を計画・実施していた。今後は、事業の実施後、各部署において参加者・相手方のニーズ、成果等を把握するべく情報収集を行い、事業の改善・向上の取組に向けての支援を理工学部地域連携推進委員会が主体として取り組む。改善・向上を図った事例としては、図書館公開講座において、参加のための利便向上を図るため、ICTツールを活用して対面型・オンライン型のハイブリッド方式で開催している。今後の改善点としては、理工学部全体として社会連携・社会貢献の点検・評価を行う方法等を検討しており、理工学部地域連携推進委員会において、各部署(学科・委員会・課等)が社会連携・社会貢献に関する方針に沿うどのような活動を行っているのかを整理し、実施状況の把握及び効果の実態について、理工学部内部質保証推進委員会に報告することで情報の共有化を図ることとしている。

また、研究面においては理工学部学会・協会賞等受賞者表彰制度に基づき、国内外の学会・協会等の学術団体からその優れた研究業績や功労によって表彰された者等を、毎年度理工学部として改めて表彰することを通して、諸活動の活性化及び資質向上を図っている。

## 2 長所・特色・問題点

### 【長所・特色】

理工学部としての社会連携・社会貢献に関する方針を定め、理工学部の教育研究活動における成果を還元すべく「学外機関、地域社会等の連携」を各部署(学科・委員会・課等)において積極的に推進している。社会連携・社会貢献の方針に基づく活動について網羅的に整理し、ホームページにて情報発信を行い、情報を分かりやすく発信することで学内外にわたって活動の共有を図る。